

今日から試せる! PR&販促講座

～成熟市場に活路を見出す美容マーケティング～

VOL.16

エフォートレス(抜け感)ファッションが愛される理由
～「カジュアル下手」を自認するアラフィフ女性たち～

松下令子 (まつしたれいこ)

美容専門PR・販促支援会社 株式会社DSプロモーション 代表取締役
「自分が顧客だったら何を助けてもらいたいのか？」をスタッフ一同の視点にして、PR・販促支援サービスを展開。美容皮膚科等とのパイプも強く、テスター設置活動など独自の販促支援事業が好評。今年度より同販売網を活用して物販事業を開始。「当連載では、販促やPRに生かすヒントとして生活者の美容意識や購買行動の視点から分析していきます。」

【株式会社DSプロモーション】 <http://www.ds-p.net/> TEL: 03-3453-8163



最近、50代女性と仕事やプライベートでもお話しする機会が増えましたが、そこで多くの女性が外見面で悩んでいるのが意外にも「ファッション」についてでした。もちろん、50代と一口に言っても、50代前半か後半か、ライフスタイル、もしくは有職者か未就労者かによってそのレベルは人によって差異はありますが、まとめると皆さん口をそろえて「カジュアル下手」を自認する人が多いのが印象的です。

人に会う時は「きちんと」「清潔感」を与える印象を大事にしてきて、かつオンとオフのメリハリをつけてきた世代です。仕事や行事に参加する時など、いわゆるオフィシャルのおしゃれは心得たものですが、とたんにカジュアルなシーンとなるとその「引き算」具合がわからないという人は多いようです。よく話を聞いていくと、その「引き算」「抜け感」を上手に演出したいのは断然、同性(女性)の友達と会う時たそうで、「さりげなくおしゃれに見えるのが難しい」(55歳・専業主婦)、「相手が何気ないリラックスしたおしゃれな装いで、こっち

が力みすぎた時はハズした!」って思う(50歳・会社員)との声も聞かれます。ゆえに女性ファッション誌などではこそって「エフォートレス(抜け感)」なるキーワードが躍り、支持されているのもうなずけます。

先日会ったある50代前半の美容編集者も同様に「最近仕事で打合せでもあえてカジュアルな素材を取り入れながら相手に失礼な印象を与えないきちんと感を出せるか?ということに挑戦している」と言っていたのが印象的でした。

彼女曰く、かための打合せ等は場合によってはフォーマルによった服装で出向きますが、インタビューなどが相手や自身をリラックスさせたい時は、「どこか少し力を抜いた」「きちんとカジュアル」を心掛けているそうですが、「そのバランスはかなり難しい」と話します。編集者というトレンドの第一線に身を置く彼女でさえ「難しい」のですから「一般的にはその「カジュアルな壁」のハードルがいかにも低くないかがうかがえます。

これらの話を聞くと、きちんと見せたいもののさりげなく力を抜いたカジュアルダウンこそがおしゃれの代名詞のようなものになってきているようです。しかし、そこには、自分たちを魅力的に見せたい想いがあるのももちろんですが、単に女性達が「自己をアピール」することだけが目的なのではなく、一緒にいる人との同調や相手に対する配慮や気遣いといったものがうかがえます。ここに、円滑な人間関係を念頭に置くコミュニケーションを重視する世代ならではの意識が働いて「エフォートレス感」が重視される所以となっているのでしょう。